

第Ⅶ章 教育研究等環境

1. 現状の説明

(1)教育研究環境の整備に関する方針を明確に定めているか。

<1>大学全体

名古屋市北区名城公園キャンパスの拡張計画として、東海財務局から南側或いは北側の土地の売却について公示された際は、当該土地の取得要望書を提出し、取得が可能となった場合は、日進キャンパスの学部の一部を移転することとしている。なお、本計画にあたっては、本学各キャンパスの今後の位置づけを明確にすべく、「愛知学院大学の将来像」を策定し、各キャンパスの特色を鮮明にし、それに応じた教育・研究に対する整備計画を行うことを予定している。

また、校地・校舎・施設・設備に係る大学の計画としては、施設・設備の老朽化に対応するため、耐震診断に基づき耐震補強工事（一部改築）及びリニューアル工事、バリアフリー工事、空調改修工事、エレベーター改修工事などを順次実施する。

(2)十分な校地・校舎および施設・設備を整備しているか。

<1>大学全体

ア. 校地・校舎等の整備状況とキャンパス・アメニティの形成

(ア)校地・校舎の整備状況

本学学生の使用するキャンパスは、名古屋市郊外の愛知県日進市と名古屋市千種区楠元・末盛、名古屋市北区名城公園の4ヶ所にわたっている。日進キャンパスには、大学院7研究科（法務・文学・心身科学・商学・経営・法学・総合政策研究科）、大学4学部

（文・心身科学・法・総合政策学部）に教養部（商・経営・経済・歯・薬学部1年次生含む。）を有し、楠元キャンパスには、歯学部（2～6年次）・薬学部（2～6年次）、末盛キャンパスには、南館・西館に中部地区最大級の歯科大学附属病院と北館には臨床系の研究施設を兼ね備え、高度先進医療を患者に提供している。名城公園キャンパスには、大学3学部（商・経営・経済学部）（2～4年次）を有し、最新技術を駆使した良質な学習環境とともに、地域の人々の学びと憩いのスペースも備えている。

学生総数一人当たりの面積は、日進及び名城公園キャンパスにおいては校地が約50㎡（総面積493,915㎡）、校舎が約19㎡（総面積188,649㎡）に維持されている。日進キャンパスは大学設置基準面積を大幅に上回るゆとりある学習環境が実現されており、附属施設として、緑豊かな広大な敷地内に講堂（4,186㎡）、体育館（4,855㎡）、スポーツセンター（7,453㎡）、学院会館、学院会館宿舎、合宿所、食堂4棟、研修会館、クラブハウス3棟と、陸上競技場（18,411㎡）・野球場（14,029㎡）・サッカー場（9,075㎡）・テニスコート17面（12,950㎡）の他、多目的グラウンド3ヶ所（32,581㎡）が配置されている。

名城公園キャンパスは、名古屋都心に位置しており、環境に配慮した最新の都市型キャンパスとして、愛知県庁、名古屋市役所ほかの官公庁、ビジネス街、名古屋駅エリア、栄エリアの躍動する社会が実感・体験できるほか、名古屋城、名城公園など緑も多く自然の安らぎが得られる良質な環境となっている。

楠元及び末盛キャンパスは、両キャンパス合わせて学生総数一人当たりの面積が、校地

第Ⅶ章 教育研究等環境

は約28㎡（総面積41,038㎡）、校舎は約43㎡（総面積63,863㎡）であり、大学設置基準面積を上回る都市型キャンパスを備えているほか、附属施設として、楠元キャンパスに、講堂（903㎡）、体育館（3,269㎡）、戦略研究施設として歯学部基礎教育研究棟に未来口腔医療研究センターを設置している。

また、2012（平成24）年度には大学院薬学研究科の開設にあたり4号館を改築し、薬学研究科のほか薬学部、歯学部及び短期大学部の共用施設として、講義室、ゼミ室を備えている。

(イ) キャンパス・アメニティの形成

日進キャンパス内には食堂が5箇所あり、各食堂の収容人数は、けやきテラス内食堂（1,000席）、さくらテラス内食堂（100席）、第2食堂1階（390席）、第2食堂2階（470席）、第3食堂（400席）である。また、昼食時の混雑解消対策として、建物内に3つの弁当業者を入れ、空き教室や屋外で昼食をとる学生に便宜を図っている。けやき・さくらテラスでは、学生の要望・嗜好を配慮した個別の専門店舗展開（カレー・ハンバーガー・ラーメン）を行っている。なお、けやき・さくらテラス一帯は「学院の杜」として整備し、芝生やウッドデッキを配置し、水辺の自然を感じられる環境を取り込んでいる。楠元キャンパスでは、4号館1階カフェテリア（200席）、薬学部棟1階学生ホール・カフェテリア（188席）、歯学部基礎棟1階談話室（120席）、末盛キャンパスでは、北館地下に食堂（91席）を完備している。名城公園キャンパス内には、くすのきテラス（食堂棟）を設置し、1階のKinshachi Dining（330席）は、コミュニケーションラウンジやラーニングcommonsとしても使用でき、2階の「猿cafe」（110席）では、世界各国のビジネス誌を読むことができるブックカフェになっている。

喫煙対策については、日進キャンパスには13箇所の指定喫煙所を設け、キャンパス内で分煙化を図っているほか、年2回教職員および学生有志による「受動喫煙防止キャンペーン」を展開し、分煙の周知徹底、喫煙の害の啓蒙活動を行っている。

障害者への対応として、日進キャンパスでは、スロープ・自動扉・教室の横引き戸化・身障者トイレ、身障者用エレベーターを整備している。なお、楠元キャンパスおよび名城公園キャンパスにおいても同様な整備を実施している。

学生の通学について、日進キャンパスでは自動車通学者も多いため、学生専用の駐車場（収容台数1,900台）を整備し、「交通安全講習」を受講した学生に対し、所定の利用申請のうえ、使用許可を付与している。なお、駐車場利用に当たっては、ID学生証をゲートにかざすことで（登録サーバー上データと照合）入場できる仕組みとし、利便性のほか不正入場防止に役立っている。

防犯面では、各建物内、学生駐車場を中心に防犯カメラ、定点カメラを設置し、学内における学生生活の安全確保に努めている。この映像管理は守衛室で一元管理されており、万一の場合は過去に遡り確認できる仕組みとなっている。

その他、近年のネット環境の急拡大を受け、学内4箇所にWi-Fiスポットを設け、ノートPCやスマートフォン利用者への便宜を図っている。また、本部棟1階の「A-cube」には、大型モニターやカラフルなベンチシートが設置され、学生の憩いの場として機能している。

今後のキャンパス・アメニティ形成に向けては、学生部学生課が主体となり4年に1度実施している「学生生活アンケート」の結果を元に、学生の要望や傾向を反映した利用価値

のある設備投資を検討している。

イ. 校地・校舎・施設・設備の維持・管理、安全・衛生の確保

(ア)校地・校舎・施設・設備の維持・管理

本学の設備・管理等の維持・管理体制は、各学部及び大学事務局等の要望事項を管財部でとりまとめ複数業者による見積りを徴収の上、理事会において施工・管理業者を決定している。

施設・設備の老朽化対策としては、日進キャンパスでは、2013（平成 25）年度に、図書館本館 1 階の改修工事を行い、アクティブラーニング専用スペース「ラーニング・コモンズ」を設置した。平成 26 年度には、1 号館 3 階 1301 教室固定机椅子更新工事、1302 教室固定机椅子更新工事、ゴルフ練習場ポール改修工事、図書館本館 3 階トイレ改修工事、第 3 テニスコートハードコート改修工事、健康管理棟 2 階学生相談センター空調改修工事、9 号館 2 階情報処理教育センター床改修工事、学生駐車場ゲート本体更新工事、講堂前街路灯取替工事、野球場スコアボード補修工事を行った。

楠元キャンパスにおいては、2014（平成 26）年度に、基礎棟 1 階動物舎給湯設備更新工事、基礎棟 1 階動物舎ボイラー更新工事、基礎棟 1 階動物舎空調更新工事を行った。

末盛キャンパスでは 2014（平成 26）年度に、西館屋上熱回収式ヒートポンプチラー№1 更新工事を行った。

耐震改修事業について、日進キャンパスでは、2014（平成 26）年度に、1～2 号館東側渡り廊下耐震補強工事を行った。

また、2003（平成 15）年度からコージェネレーションを導入し、ガスエネルギーを活用したエネルギー効率の向上に努めているほか、安全衛生管理の一部を外部委託し、コストの削減に努めている。楠元キャンパスでは、平成 20 年に名古屋市よりエコ事業所として認定され、た。さらに 2011（平成 23）年、2014（平成 26）年には更新認定されている。

名城公園キャンパスでは、地域の特性を生かした環境配慮型キャンパスとして、名城公園から吹く風を活用するため、建物は東西に風が通るように配置している。4 棟すべてに「クールアンドヒートピット」と呼ばれる地中熱利用換気システムを採用しているほか、多様な発電方式を採用し、太陽光発電＋蓄電池、ガスコージェネレーションシステムを組み合わせることにより、夏場の昼間などの電力消費のピークカットに貢献している。また、太陽光発電量、電気使用量などの数値を表示するモニターを全棟に配置し、省 CO2 の見える化を行っている。

(イ)安全・衛生の確保

施設・設備の安全管理については、電気関係は主任技術者・工事士・エネルギー管理者、ボイラー関係は技士・整備士、危険物関係は取扱免許取得者、冷凍機関係は取扱責任者、衛生・環境関係は管理技術者・浄化槽技術管理者・浄化槽管理士・水道技術管理者、建築関係は設備点検資格者・検査資格者、消防関係は防火管理者、設備点検資格者・整備士、廃棄物関係は管理責任者を学内に配置し、関係監督官庁への許認可届出のほか常時測定・検査を実施し安全衛生管理を行っている。

名城公園キャンパスは、地域の防災拠点を果たす自立機能として、非常用発電機、太陽光発電＋蓄電池、停電時にも発電可能なガスヒートポンプ空調機などの導入により、天災などの非常時にも電気が使用できるほか、井戸や雨水貯留槽を備え、上水道供給が途絶えた時の生活用水として利用も可能としている。また、自然・未利用エネルギーの有効活用も行って

おり、井戸水をくみ上げ空調として熱利用したうえで、樹木の水やりやトイレ洗浄水に利用したり、居室の冷・暖気を廊下やトイレにも利用しているほか、さらに、次世代型の誘引放射空調システム（省エネ大賞受賞）を採用し、省 CO2 の実現および照明には LED を採用し、人の有無や時刻に応じた制御を行うことにより、良質な学修環境と省 CO2 を両立させている。

各キャンパスには、中央監視装置・防災監視盤を導入し、熱源設備・空調設備の監視・運転、電気設備・給排水設備の監視、消防用設備の監視・動作の制御及び照明操作盤にて、制御・状態監視を行っている。防犯対策としては、複数の防犯カメラを設置し、守衛室で映像の記録および監視を行っている。校舎にはセキュリティ装置を設置し、特に夜間の入出退管理を実施している。環境保全については、緑化の拡充、コージェネレーションの導入、省電力型照明器具の採用等の対応および汚水処理場を独自に完備するなど省エネルギー対策並びに水質環境保全を実現している。廃棄物については、発生抑制・再利用・再生利用の適正処理に努めている。各キャンパスに防火防災管理者を置き、緊急防災対応の組織は出来上がっており、学生・教職員を動員した避難訓練を行っている。

(3)図書館、学術情報サービスは十分に機能しているか。

<1>大学全体

ア. 図書、学術雑誌、電子情報などの整備状況とその適切性

本学には、商学部・法学部・文学部・経営学部・総合政策学部・心身科学部および教養部がある日進キャンパスに「図書館情報センター（以下、「日進図書館」という）」が、歯学部（基礎教育研究部門）と薬学部、短期大学部がある楠元キャンパスに「歯学・薬学図書館情報センターが、さらに、歯学部の臨床部門と附属病院がある末盛キャンパスに「歯学・薬学図書館情報センター分室（以下、「楠元図書館」という）」が設置されている。なお、2014（平成 26）年 4 月の商学部・経営学部・経済学部の新キャンパス移転に伴い、図書館情報センター名城公園キャンパス分館 Cubic Lib（以下、「名城公園分館」という）が設置され、日進図書館に準じた形で運用が行われている。

それぞれが、本学図書館の『理念と目標』に則りつつ、対象学部の利用学生と教職員のニーズに対応できるように独自色を打ち出し、特色ある運営方針に基づいて学術情報の整備と利用基盤の拡充・整備に努めている。付された情報センターの名前が示すように、図書や資料の系統的な収集・整理・保存・貸出といった図書館としての基本的業務に加えて、蓄積している学術情報を利用者の求めに応じて素早く提供する情報の発信基地として、さらには知的世界のナビゲーターとしての役割を担うべく、館員が一丸となって利用者に満足度のより高いサービスを提供できるよう取り組んでいる。

(ア)学術情報の整備状況

日進図書館の蔵書数は、約 98 万冊（研究所等所蔵分約 15 万冊含む）学術雑誌については、和雑誌、洋雑誌、大学紀要、約 1 万 5 千種、視聴覚資料は約 3 万タイトルを数える。さらに、新館地下 1 階には、貴重資料室を設けている。所蔵資料の分野については、社会科学系分野の資料の占める割合が高い。約 12 万冊の図書資料を開架し、教育・学習用に供している。2006（平成 18）年度以降毎年、蔵書点検システムを利用して蔵書点検を実施し、蔵書管理を徹底している。蔵書の特色として、仏教関係、大蔵経、漢籍（清代以前に中国で発行されたもの）、郷土資料（愛知県）、社史などを主に収集・所蔵している点が挙げられる。

とりわけ本学の設立の関係から寺院文書についても、正眼寺文書（正眼寺は小牧市にあって、14世紀はじめに後小松天皇によって建てられた古刹）をはじめ、多数の寺院文書を所蔵している。さらに、特殊文庫については、20におよぶ個人文庫を所蔵し、学内外の利用者に貴重な学術資料を提供している。また、貴重資料として、貴重資料室に、百万塔陀羅尼、大英百科事典初版本、西洋古版地図、日本の古典籍、古文書など多数収蔵している。

楠元図書館では、2009（平成21）年度を初年度とする3カ年の中期整備計画を策定し、この内容を踏まえ2014（平成26）年度も①歯学・薬学・衛生学を中心とした医療図書館として、利用者のニーズに応え、期待と満足度を向上させる。②教育課程に準拠した図書館サービスの創出と提供を目指す。を目的として、その効果を「研究・教育・学習・臨床を強力に支援する組織作り」などと位置づけ、歯、薬教育課程に準拠した情報提供の拡充に取り組んできた。蔵書数は、和洋併せて約17万冊であり、内約3万5千冊が開架されている。学術雑誌として和雑誌が約1,200タイトル、洋雑誌が約1,200タイトル、視聴覚資料は約1,900点、電子資料は約700点に及んでいる。蔵書の特色として、名称を「歯学・薬学図書館情報センター」と称していること、主に歯学部2～6年、薬学部2～6年、短期大学部衛生学科生が学んでいるキャンパスに設置され、資料の大部分は歯学・薬学・衛生学関係資料である。特筆すべき資料として、自然科学系総合雑誌「Nature」を創刊号から揃えていること、歯科学の古典洋書（1880年刊行）を所蔵していること、厚生労働省関係の統計資料が充実していることなどが挙げられる。楠元図書館では日本十進分類法(NDC)を採用しているが、上述のように分野が偏っているために、2009（平成21）年度からNDC分類番号497(歯科学)は、「愛知学院大学歯科学関係分類表」を作成、細分化するとともに、図書記号を受入順から著者名順に改め、同一分類内で同一著者の著作がまとまるよう利用者の利便性を考慮した配架に変更した。また、2010（平成22）年度から医歯薬分野の電子書籍の購入に力を注ぎ、利用者の便宜を図っている。

新設の名城公園分館の蔵書数は、約4万2千冊（旧研究所蔵書約4万冊含む）、カレント雑誌約320誌。商学・経営学・経済学関係資料に特化した図書館として機能している。

3館ともに、図書予算の削減と外国雑誌の価格高騰への対応として、重複発注や冊子体と電子ジャーナルの重複購入を避けるために複本チェックを強化し、学部毎に購読雑誌の利用調査や購読希望調査を実施して、購読雑誌の見直しに協力してもらっている。限られた図書館予算の有効運用に努めている。

(イ) デジタル情報の発信

日進図書館および名城公園分館では、50種以上のデータベースを提供し、デジタル情報の充実を図っている。2008（平成20）年度から貴重資料室保存の貴重書のデジタル化に着手し、ホームページ上にて公開している。約600点以上の貴重資料が、世界中からアクセスされている。また、本学の学術紀要の電子化については、2011（平成23）年度から愛知学院大学学術紀要データベースのコンテンツを作成し、試験運用ながら19の紀要を掲載して学術情報を広く発信している。

楠元図書館では、機関リポジトリの推進に関する事業の一環として、関係学部の学会誌、紀要などの研究成果を積極的にホームページ上にて公開している。

イ. 図書館の規模、司書の資格等の専門能力を有する職員の配置、開館時間・閲覧室・情報検索設備などの利用環境

第Ⅶ章 教育研究等環境

(ア)図書館の規模

日進図書館は、2004（平成16）年に新館が増設され、総床面積約1万4千㎡（閲覧室等延床面積は9,698㎡、書庫延床面積は4,262㎡）、閲覧総座席数は1,484席（ラーニング・コモンズ201席および多目的ホール90席を含む）を有し、図書資料収容能力冊数は約115万冊（開架15万冊、書庫100万冊）といった、中部圏の私立大学中最大規模の図書館である。

1966（昭和41）年竣工した楠元図書館は、2009（平成21）年度の耐震工事に伴うリニューアルにより、2階部分にあった閲覧室を1階部分にも拡張した（閲覧総座席数は182席）。閲覧室等延床面積は971.4㎡、書庫延床面積は800.6㎡である。開架収容能力冊数は約2万6千冊で、4層構造の書庫収容能力冊数は約15万冊であり、学生の利便性を図るため、書庫入庫を許可している。2階の閲覧室は、研究用医療図書館としての機能を集中させ、専門書や学術雑誌等の図書館資料を配架している。さらに、電子ジャーナルやデータベースが閲覧・利用できる設備等を充実し、AVブースには2台のAV機器を設置して、DVDやビデオテープなどの視聴覚資料の視聴を可能にしている。また、1階閲覧室は個人学習室2室と軽読書コーナーなどを設け、快適性と利便性を重視した学習環境を作り上げている。短期大学部生・教員専用席を設置し、一部の利用者が席を占有しないような措置も講じている。2階入口前にコインロッカー（硬貨返却式）があり、利用者の利便性向上に役立っている。日進図書館のようにラーニング・コモンズを設置するスペースがないため、2階を「研究用フロアー（静かエリア）」「1階をラーニング・コモンズ風学習フロアー（多少声を出して議論することを許したエリア）」と区分けしている。

末盛キャンパスに設置されている分室は、すべて開架式（収容能力は約1万冊）になっており、臨床系専門図書等が配架されている。総床面積は185㎡、閲覧座席数は55席である。さらに、TVとビデオデッキが1台置かれ、視聴覚資料が視聴可能である。書庫には、図書資料のほぼ6割を占める製本雑誌が保管されている。

楠元図書館の面積は日進図書館ほど広くなく、書架は常に満杯に近い状態が続いており、図書廃棄基準などにより、適正な蔵書構成となるよう努めている。

2014（平成26）年度新設の名城公園分館は、総面積約2千㎡、閲覧総座席数は197席（グループラーニングスタジオ24席を含む）、図書資料収容能力冊数は約9万5千冊（全開架）、経済系3学部専用の専門図書館である。

(イ)職員の配置、開館時間・開館日数

日進図書館の職員は、専任職員7名（および館長1名）と委託社員28名（閲覧関係業務委託：17人口、整理関係業務委託：4人口）で構成されている。専任職員のうち5名が司書ないし司書補の有資格者である。なお、委託社員についても、ほとんどが司書ないし司書補の有資格者である。2015（平成27）年度の開館日数は273日であり、授業開講期間中は祝祭日・日曜日を除き開館している（夏季休暇中、土曜日は閉館）。開館時間について、授業開講期間中の平日は9時から20時まで（夏季期間中は9時から17時30分まで）、土曜日は9時から13時までとなっている。

楠元図書館の職員は、専任職員4名（およびセンター長1名）と委託社員7名で、そのうち10名が司書ないし司書補の有資格者である。その内5名は、日本医学図書館協会が主催する「ヘルスサイエンス情報専門員」の資格をも取得し、図書館員としての能力向上に努めている。2015（平成27）年度の開館日数は295日であり、原則として開館時間は平日は

9時から20時、土曜日は9時から12時（学生休暇中の平日は9時から17時30分、土曜日は休館）であるが、試験期間前を中心に、土曜日延長開館15日（9時～17時30分）日曜祝日開館20日（9時～17時30分、2014（平成26）年度より）、を計画、実施した。

名城公園分館の業務については、すべて委託社員6名（閲覧関係業務委託：6人口）で構成されている。ほとんどが司書ないし司書補の有資格者である。名城公園分館の開館日数および開館時間などは、日進図書館に準じている。

(ウ)情報検索の設備

日進図書館は、蔵書検索用端末を1階に3台、2階に17台、3階に7台、合計27台設置している。情報検索用としては、1階の情報検索コーナーに42台、2階のレファレンスカウンターに4台、合計46台の情報検索用端末を設置し、データベースや電子ジャーナルの利用に供している。なお、情報検索コーナーの一部を情報教室として運用しており、各種データベース講習会や情報検索講習会を開催している。名城公園分館は、蔵書検索用端末を6台設置している。

楠元図書館は、蔵書検索用端末を1階と2階に各2台、分室に1台、合計5台設置している。情報検索用としては、2階に9台、分室に2台、合計11台設置し、データベースや電子ジャーナルの利用に供している。閲覧室には、無線LANが設備されており、パソコンの持ち込みを許可して利用者の便に寄与している。

(エ)学習支援サービスの提供

日進図書館では、2004（平成16）年度から意見箱を設置し、利用者のニーズを把握するために活用している。希望図書の購入についても、ほぼ要望に応じるようにしている。2004（平成16）年度からは、館内オリエンテーションや書庫オリエンテーションだけでなく、初年次教育の図書館学習支援の観点から、授業用オリエンテーションを積極的に展開してきた。2014（平成26）年度からは、図書館アワーと名称を変更し、学生の主体的・能動的な参加により実施する方向に進化実施している。

2010（平成22）年度には、システム全体をリプレイスし、サーバーの機能をバージョンアップし、より高度化情報時代に即したシステムに改めた。その際にホームページについても全面改訂し、利用者ポータル機能を充実させ、マイページを作成して利用者の利便性を高めている。また、1999（平成11）年10月から導入した朝日新聞の記事データベース（デジタルニュース・アーカイブ・フォー・ライブラリー）を皮切りに、現在では50種以上のデータベースを提供し、デジタル情報の充実化に鋭意努めている。

2013（平成25）年10月に、日進図書館本館1階を大幅改修し、図書館内にラーニング・コモンズを新設。ラーニング・コモンズは、自律的な学習を支援し、知識の創造を促す、図書館の新しい学習区間であり、①図書館の学術情報基盤をもとにして、協同学習、ITを活用した学習が行える総合的な学習環境、②情報リテラシー能力の育成及び学習を効果的に行えるサポートサービス、③学習及び学生生活に関する各種情報の提供といった学習環境を学生の皆さんに提供することを目指している。授業のレポートやゼミの発表資料の作成、就職や資格の試験勉強など、学生たちの要望に応え、座席数を増加し、用途に合わせた様々な形態の学習施設を設置したことで、学習環境を一層充実させた。今回新たにオープンしたラーニング・コモンズ（201席）では、スタディーエリア83席、プロジェクトルーム64席のほか、プレゼンの練習や共同学習ができるプロジェクトステージ22席、外のテラス学習の合間にリフレッシュできるオープン・テラスなども設置した。東海地区の私立大学図書館

にあるラーニング・コモンズとしては最大級の施設設備を誇る。

楠元図書館でも、意見箱の設置や希望図書情報収集を継続して行い、利用者の意向を尊重した図書館運営とサービスの向上に心掛けている。閲覧室では落ち着いて勉学に励めるように「キャレルデスク(26席)」を設置し、利用者の要望に対応している。日進図書館が提供しているデータベースの大部分が、楠元図書館でも利用できるばかりでなく、直接日進、名城公園キャンパス図書館に出向かなくても所蔵資料の取り寄せが可能である。

利用者教育では主に教室、研究室に出向き、学年はもちろん、クラス単位、グループ単位にて、専任と委託スタッフによる初歩的な利用指導から、各種データベースへのナビゲーション機能紹介などの本格的な図書館ガイダンスまで、3月4月を中心に学部生、大学院生、教職員を対象に実施、実施予定である。利用者への図書館情報発信のために、「LIBRARY GUIDE」のほか、「ずいひつ」「AGU・P Library Letter(月報)」を毎月発行している。

名城公園分館においても、日進図書館とほぼ同様のサービス提供を行っている。

ウ. 国内外の教育研究機関との学術情報相互提供システムの整備

3館ともに、図書館間の相互協力について文献複写・現物貸借を積極的に進めたり、図書館施設の地域への開放に心掛けている。2011(平成23)年度から国公立大学コンソーシアムである JUSTICE が設立され、種々のデータベースの価格交渉を行い、全国レベルで海外ベンダーと対応するため、国公立大学図書館間で調整をしている。また、両館は、2008(平成20)年度から国立国会図書館レファレンス共同事業に参加し、レファレンス事例(日進図書館は259件、楠元図書館は91件)を登録・公開している。さらに、CAN 私立大学コンソーシアム(中部大学・愛知学院大学・南山大学)を2000(平成12)年に結成した。加盟各大学の所蔵資料を横断的に検索するシステムを構築し、加盟3大学の学生・教職員が、インターネット上で効率よく資料検索ができるよう発展的に運用している。

また、楠元図書館では、医学図書館協会、薬学図書館協議会、東海地区医学図書館協議会に加盟し、私立大学図書館のみならず国立大学、病院図書館などの加盟館と情報交換するとともに、東海地区医学図書館協議会の「東海目録」に参加して、地域の医療関係者に情報提供の便宜を図っている。

(4)教育研究を支援する環境や条件は適切に整備されているか。

<1>大学全体

ア. 教育課程の特徴、教育方法等に応じた施設・設備の整備

本学の教育課程はその教育目的に適すべく、設置基準にある講義、演習、実技・実験・実習に別れて行われている。教育方法の多様化などに対応するための情報設備の整備も計画的に進めている。やむを得ず多人数授業となってしまう場合は、①100名以上の講義には、教育環境整備の一環として TA を配置している。(これ以下であっても担当者の要請があれば TA を配置しているのが実態である。) ②200名以上の講義はできる限り避けるため、2クラスに分けるといった対策を講じている。演習については学部によって異なるが、他の学部もほぼ同じ状況で10名前後が最も多い。また、語学の受講者数は40名を上限、実習関係は50名以下を原則として行っている。

教育方法や履修者数に応じた施設・設備を提供するため、履修者が決まった段階でも、履修者数にあった規模の教室に変更したり、授業開始後でも、可能な限り教員の要望に沿うこととしており、限られた施設・設備を効率的に活用している。(大学データ集参考：表28、

30 参照)

イ. TA・LA・RA・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備

本学では TA・LA 制度を導入しており、RA 及び技術スタッフの整備は検討事項として残された課題である。TA・LA 制度については教務部主催の FD 委員会における「ピア・サポート事業」の中核をなしており、継続的に検討していく。

(ア)TA 制度の導入

TA の主な業務は、出席管理と配付資料の管理である。TA 制度は 2008 (平成 20) 年秋から検討が始まり、翌 2009 (平成 21) 年春より本格導入された。当初は 200 名以上の多人数授業に配置をし、教育環境をよりよく整備することを目的に始まったが、現在では受講者数が多く担当者が希望し、その要望に応じられる学生がいれば、原則配置する方針で実施している。

(イ)LA 制度の導入

学生の中から優れた学生を選び、仲間への指導及び教員の補助にあたる SA 制度は既に総合政策学部の情報処理関係科目で導入され実績をあげており、心身科学部でも 2012 (平成 24) 年秋学期より導入を始めたが、新たに 2013 (平成 25) 年度秋学期より全学で、ピア・サポート・システムによる LA 制度を導入した。この制度のねらいは、指導役にあった学生が、仲間に指導とアドバイスをすることにより、より自分に自信を持ち知識の定着をめざしたものである。

ウ. 教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保

(ア)教員の研究費

教員の研究費については「個人研究費規程」及び「学会出張費規程」に定めてある。

(イ)教員の研究室

- ① 教員の研究室は、大学データ集参考：表 26 の通りである。
- ② 歯学部、薬学部を除いて原則全教員が個室を持っている。

(ウ)教員の研究専念時間

日進キャンパスにおいては、一般的にはノルマは週 5 コマ、語学・体育系は 5 コマと定められている。実態は平均して 6~7 コマというノルマ+1 又は 2 である。この他には教員は会議、オフィスアワーにおける学生指導等に時間をさかれ、教員の研究及び授業のための準備等は、いずれの教員も精一杯の努力の中で確保している。

<2>歯学部(楠元キャンパス)

歯学部共同利用施設として未来口腔医療研究センターが歯学部基礎教育研究棟内に設置されており、教育研究用の大型機器(組織切片自動作製装置、分子間相互作用定量システム、ICP 発光分光分析装置、蛍光 X 線分析顕微鏡、蛍光・発光・吸光マルチ測定システム、キャピラリーサイトメーター、マイクロダイセクションシステム、DNA シーケンシングシステム、遺伝子発現解析システム、発光顕微鏡/EM-CCD カメラシステム、小型レーザー焼結型 RP システム、電子プローブマイクロアナライザ、超遠心機など)が整備されている。さらに歯学部基礎教育研究棟には、大・中型動物の飼育も可能な動物実験センター、電子顕微鏡施設、アイソトープ研究施設が設置されており、共同利用施設となっている。

歯学部には臨床教育を実施するための施設として愛知学院大学歯学部附属病院が設置されており、16 の専門診療部と 13 の特殊診療外来が設けられている。専門診療部診療科の中には、内科、外科、小児科、耳鼻咽喉科も含まれ、関連する医科分野とも連携が図られている

る。常勤従事者総数は 372 名で、このうち歯科医師は 128 名、医師は 8 名である。診療ユニット総数は 198 台、手術室 3 室を備え、一般病床数は 44 床である。

各講座には教育研究を支援するため、1～2 名の補助者（実験補手または教務実習補手）が配置されている。動物実験センター、電子顕微鏡施設、アイソトープ研究施設、未来口腔医療研究センターにも施設と設置機器の管理および利用者の援助のために数名の専任職員が配置されている。

歯学部は講座制をとっているため、教員の研究費は講座単位で配分され、講座の方針に従って運用される。1 講座あたりの研究費はおおよそ 300 万円である（所属する大学院生の数等により変動がある）。講座の研究設備等の充実・更新を図るため、各年度に基礎系の 2 講座と臨床系の 3 講座に順次 240 万円の予算が配分される。さらに、講師、准教授、教授にはそれぞれ年額 6、7、10 万円の指導研究費が支給されている。職責が増すにつれ、教育・会議・委員会活動等に係る時間が増加し、研究専念時間を通常の勤務時間内に確保することが困難になる傾向がある。1 講座あたりの研究室の床面積はおおよそ 200 平方メートルである。

以上に基づき、教育研究を支援する環境や条件は適切に整備されていると思われる。

<3>薬学部(楠元キャンパス)

薬学部の各講座あたりの床面積は 144～163m² である。そのうち約 113～114m² が研究スペースとして利用可能であるが、その一部を講座スタッフ（1～2 名）および配属学生（1 学年 9 名～10 名で 2 学年）の居住スペースとしても使用している。共同機器室が薬学部棟内および 4 号館内（大学院薬学研究科との共同利用）に設置され、教育研究用の大型機器（NMR、共焦点レーザー顕微鏡、シーケンサー、フローサイトメーター、セルアナライザーなど）が整備されている。薬学部棟内には小動物用の簡易の動物センターが設置されているが、大・中型動物の飼育には、歯学部動物センターの利用も可能となっている。

薬学部棟には 180～190 名収容可能なマルチメディア対応の大講義室（机イス固定式）が 4 室設置されており、視覚映像教材などを用いた効果的教育が実施できる環境となっている。また薬学棟隣接の 4 号館には薬学部が利用できる 230 名収容可能なマルチメディア対応の大講義室（机イス固定式）が 1 室設置されている。さらに薬学部棟には 80 名収容の中講義室（2 部屋、マルチメディア対応、机イス移動式）が常時利用可能となっている。

楠元キャンパスには、歯学部・薬学部共通で、少人数の参加型学習が実施可能な小教室（10～30 名定員）が 9 部屋のほか、薬学部棟の 6 部屋（セミナー室兼用）も利用可能である。さらに机をアイランド型に自由に配置できる大教室が薬学部棟内に 5 部屋（2 部屋は中講義室として兼用、5 階多目的室、6 階薬学情報センター、8 階多目的室）設置されており、4～10 グループ同時に参加型学習が実施できる。

その他、基礎・医療薬学実習用の実習室（60～80 名用 4 部屋）、パソコン室（PC168 台、カラーレーザープリンター 4 台、薬剤実習センター、動物実験施設（薬学棟（小型動物用）、歯学部棟（大型・中型動物用）、RI 実験施設、薬用植物園（日進および楠元薬用植物園）および生薬標本棚が楠元キャンパスに整備され、利用可能である。

実務実習モデル・コアカリキュラムに準拠した実務実習事前学習を実施するため、薬学部棟 5 階に薬剤実習センターを設けている。薬剤実習センターには模擬薬局、模擬病室、クリーンベンチ、製剤調剤スペース等が設置されている

卒業研究で利用可能なスペースとして、各講座に 113～114m² が割当られ、各講座の特徴を生かした多様な卒業研究が実施されている。また薬学部棟に設置された共同機器室（7 階

158m²、6階 114m²)、遺伝子実験室(7階 P2用 23m²)、シールドルーム(7階 45m²)、低温室(6階共同機器室内)、4号館大学院薬学研究科実験室(5階 90m²)が利用できる。

(5)研究倫理を遵守するために必要な措置をとっているか。

<1>大学全体

本学では、「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン(実施基準)」(平成26年2月18日改正)及び「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」(平成26年8月26日文科科学大臣決定)に対応し、公的研究費に係る管理・運営体制、内部監査体制の整備、不正防止等に取り組むため、2015(平成27)年4月に「学校法人愛知学院における公的研究費等の取扱規程」及び「学校法人愛知学院における公的研究費等の不正防止計画」を改訂した。また、上記のガイドラインにより取り組みが求められている「コンプライアンス教育」及び「研究倫理教育」については、「科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—(日本学術振興会)」から抜粋した本学独自の教育用テキストを作成し、研究者及び関係職員に配付し、「コンプライアンス・研究倫理教育理解度チェックシート」に回答する方法により実施した。

その他、研究者に対しては「愛知学院大学における研究者の行動規範」を定め、関連する「研究活動の不正行為に関する取扱規程・同実施細則」を整備している。これらの規程等は、学内で開催する科学研究費助成事業説明会及び研究支援課専用のホームページを通じて広く周知している。

2015(平成27)年度から「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に対応して、ヒトを対象とする研究を行う研究者を対象として、「人を対象とする医学系研究倫理」についての専門知識の習得及び研究倫理意識の向上を目指すため、専門家による講演会を実施している。

ハラスメントに関しては、本学の学生、職員及び本学と関係を有する者に関わるハラスメントを防止し、ハラスメントによる被害を救済し、本学における快適な教育、研究、学習及び職場の環境を保障することを目的として、2014(平成26)年4月1日に「愛知学院大学ハラスメントの防止及び処理に関する規程」を改訂・施行し、必要な対応が行えるようにしている。

遺伝子組み換え生物等の使用に関しては、2007(平成19)年4月1日に「愛知学院大学組換えDNA実験安全管理規程」を改訂・施行し、遺伝子組み換え生物使用の安全かつ適正な実施を図っている。

ヒトや動物を対象とする研究に関しては、「愛知学院大学歯学部ヒト幹細胞臨床研究に関する規程」(平成24年1月改訂)、「愛知学院大学歯学部ヒト細胞組織遺伝子疫学情報倫理委員会内規」(平成27年10月改訂)、「愛知学院大学歯学部動物実験実施規程」(平成26年4月改訂)、「愛知学院大学薬学部動物実験委員会規程」(平成18年4月施行)、「愛知学院大学教養部動物実験委員会規程」(平成21年4月施行)を踏まえ、各種委員会等を設置するなどの体制を整備し、必要な対応が行えるようにしている。

<2>歯学部(楠元キャンパス)

愛知学院大学で研究活動を行うすべての者及びこれを支援する者を対象とした「愛知学院大学における研究者の行動規範」を制定して不正行為の防止に努めるとともに、不正の告発などに対処するため「愛知学院大学における研究活動の不正行為に関する取扱規程・同実

施細則」を整備し、上記の取扱規程で規定される研究活動不正行為対策委員会を設置して対応している。

歯学部には所属する研究者が行うヒトを対象とした研究およびその臨床応用について、ヘルシンキ宣言の趣旨に沿った倫理的配慮を図ることを目的として「愛知学院大学歯学部倫理委員会」を設置し、研究者から申請された研究等の実施計画の内容とその成果の公表に関する事項について審査している。また、文部科学省及び厚生労働省により定められた「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」(平成 26 年 12 月 22 日制定)に対応するように、2015 (平成 27) 年 4 月に「愛知学院大学歯学部倫理委員会規程」を改訂した。

上記の「愛知学院大学歯学部倫理委員会」の審査対象のうち、ヒト幹細胞臨床研究に関しては、「愛知学院大学歯学部ヒト幹細胞臨床研究倫理審査委員会」で審査している。

愛知学院大学歯学部で行われる動物実験が倫理的配慮に基づいて行われることを含め、動物実験が適正に実施されるよう「愛知学院大学歯学部動物実験実施規程」及び「愛知学院大学歯学部動物実験センターの利用に関する細則」が制定されており、実験動物に対する倫理的配慮を含めて動物実験計画の適否を歯学部動物実験委員会で審査している。

上記のように、研究倫理を遵守するために必要な措置はとられているものと思われる。

<3>薬学部(楠元キャンパス)

研究倫理を遵守するために「愛知学院大学における研究者の行動規範」及び「愛知学院大学における研究活動の不正行為に関する取扱規程・同実施細則」を整備し、研究者にこれらを周知するとともに、科学研究費助成事業説明会において研究支援課が研究者等に説明を行っている。また、薬学部臨床研究倫理委員会の設置や「薬学部動物実験指針」の策定により、臨床研究や動物実験研究が研究倫理に基づき適切に実施されていることを担保している。

2. 点検・評価

(1)効果が上がっている事項(優れている事項)

<1>大学全体

ア. 校地・校舎、施設・設備整備

施設・設備の老朽化対策としては、日進キャンパスでは、2008 (平成 20) 年度に 5 号館 けやきテラス (旧第一食堂) を改築し、学生のニーズに適応したフードコート型の新食堂をオープンさせた。2013 (平成 25) 年度には、図書館本館 1 階改修工事を実施し、アクティブラーニング専用スペース「ラーニング・コモンズ」を構築した。楠元キャンパスでは、2010 (平成 22) 年度に講義室棟である 4 号館の改築工事を実施し、1 階にカフェテリアを新設した。2013 (平成 25) 年度には、解剖実習室の全面改修工事を実施した。

耐震改修事業については、日進キャンパスでは、2006・2007 (平成 18・19) 年度に 3 号館、2007 (平成 19) 年度に 7 号館、2011 (平成 23) 年度に本部棟の耐震リニューアルを行った結果、校舎の耐震基準をクリアした。2013 (平成 25) 年度に図書館情報センター旧書庫の耐震工事を実施した。2014 (平成 26) 年度には、1～2 号館東側渡り廊下耐震補強工事を実施した。

以上により、老朽化および耐震改修並びに学生サービス関係施設等については、各年次を通して実施している。

イ. 図書館、学術情報サービス

(ア)学習・教育支援の推進(学部教学と連携する図書館)

3館ともに、オリエンテーションを実施。日進図書館では、3種類(館内・書庫・データベース)のオリエンテーションを実施。日進図書館では、3種類(館内・書庫・授業)のオリエンテーションを実施することにより、初年次教育を支援。

楠元図書館では、初年度をはじめとした各種の利用者教育により、研究・教育・学習・臨床の手助けとなるべく支援をするとともに、毎月利用者などから要望のあったテーマをもとに、図書の展示を行う「コンセプトコーナー」を設け、図書館に親しみやすくするための工夫をしている。さらに、センター長を中心に、楠元キャンパスに所属する各学部より選出された「歯学・薬学図書館情報センター運営委員」、図書館員が一丸となり、予算配分から、蔵書構成、図書館内レイアウトなど、利用者の要求に応えるべく、細部にわたり検討、対応している。

名城公園図書館分館においては、独自の活動も実施しているが、基本的には日進図書館に準じた種々のサービスを展開している。

日進図書館では2008(平成20)年度より、楠元図書館では2010(平成22)年度より、国立国会図書館レファレンス協同データベースに参加、レファレンス事例を積極的に登録し、ホームページ上で公開している。この活動が認められ、国立国会図書館より礼状受領(2010・2013・2014・2015(平成22・25・26・27)年度 日進図書館)。さらに、企画協力員賞を受賞2012(平成24)年度 楠元図書館)。

(イ)研究支援の充実

日進図書館では、各種データベースを有効活用できる横断検索ソフトを導入。その都度はもちろん、定期的に講習会を開催。本学発刊の紀要類のデータベース化について、2011(平成23)年度より入力作業に着手。2012(平成24)年度に日進図書館ホームページ上からPDFを公開。

(ウ)全国レベルの医学図書館間の提携の深化

楠元図書館では、特定非営利活動法人日本医学図書館協会第82回通常総会(2011(平成23)年5月20日)の開催館として準備を行った。東日本大震災の影響が残る中での開催であり、被災館への支援も含め、医学図書館間の提携の一助となった。

(エ)社会貢献の推進

日進図書館では、2010(平成22)年度に大学が立地する日進市との間で、官学連携協力協定が締結されたのを契機に、共催企画(本館所蔵の16ミリ映画の上映会とそれに因んだ内容の講演会など)を毎年実施している。

楠元図書館では、特に地域の病院図書館と連携し、資料の調査依頼などに積極的に応じている。2004(平成16)年度よりインターンシップ生(主に大学生)を毎年受け入れ、生涯学習社会における図書館業務の把握、大学図書館の新しい機能、図書館専門職の在り方について教授するとともに、図書館業務の広報の場所としても貢献している。

(2)改善すべき事項

<1>大学全体

ア. 校地・校舎、施設・設備整備

楠元キャンパスは2号館および末盛キャンパス歯学部附属病院北館の施設・設備の老朽

第Ⅶ章 教育研究等環境

化が著しく、改修または建て替えが必要となっている。キャンパス自体が住宅地に隣接しているため、周辺地域住民と十分協議のうえ、慎重かつ安全なリニューアル計画が必要とされている。

特に末盛キャンパス北館は歯学部臨床教育研究施設であるため、医療系の機器備品・機械設備を配備しており、改修については徒歩圏内である楠元キャンパスとの総合的な計画が必要である。

名城公園キャンパスへの拡張計画も含めたキャンパス日進キャンパスの再開発計画の策定が必要である。

イ. 図書館、学術情報サービス

(ア)学習・教育支援の推進(学部教学と連携する図書館)

学習・研究・教育を支える基盤的施設として、学部学科との連携を強化。学習環境の充実を図るために、教育内容を把握してシラバス掲載図書の購入に努めたい。また、レファレンス共同データベースへ、より高質な事例登録の継続にも努める。

(イ)資料組織の構築

大学図書館としての特徴ある資料の収集および組織構築を図る。さらに、本学の学部構成や教育内容を考慮した、資料の再構築による自学自習の環境づくりを目指す。

3. 将来に向けた発展方策

(1)効果が上がっている事項(優れている事項)

<1>大学全体

ア. 図書館、学術情報サービス

(ア)学習・教育支援の推進(学部教学と連携する図書館)

日進図書館では、利用者のニーズを捉える目的で、2011(平成23)年に「利用実態調査」を実施。利用者の立場から内容を大幅に改訂した「ライブラリーガイド(2014(平成26)年度版)」を制作した。2012(平成24)年度から、読書の楽しさを啓蒙する観点から、図書を紹介する「ブック・アピール・コンテスト」を開催している。

楠元図書館では、医薬系の研究を支援している関係上、緊急性を持った所蔵調査依頼が多数あるため、レファレンスデータの登録、職員のスキルアップを図るべく、研究会などに積極的に参加し、「研究・教育・学習・臨床を強力に支援する組織作り」を目指している。

名城公園図書館分館においても、日進図書館に準じた形で様々なサービスに取り組んでいる。

3館とも、ガイダンスやオリエンテーションなどでの所蔵資料の紹介を通して、学生の目線に立った、自学自習を支援する図書館を目指して、利用者の利便性の向上に努めている。

(イ)研究支援の充実

3館では、データベースのさらなる普及を図るため、学生・教職員向けの講習会を定期的に行っている。

(エ)効果的・効率的な図書館業務の遂行

3館では、『理念と目標』および毎年打ち立てている年間努力目標に沿って、利用者に最適な環境を提供すべく、それぞれの館が、より高質で特色ある支援サービスの提供に努めている。

楠元図書館では2009(平成21)年にリニューアル工事を実施し、閲覧室の座席数を大幅

に増加させるとともに、2014（平成26）年度は「日曜・祝日開館」などにより開館時間延長を積極的に行ってきた。今後も意見箱、希望図書購入などを始め、利用者の要望に即応できる体制を取っていきたい。

(e)全国レベルの図書館間の連携の深化

日進図書館は、「2013・2014（平成25・26）両年度の私立大学図書館協会西地区部会長校」に就任。楠元図書館は、2011（平成23）年度「日本医学図書館協会第82回総会」や2012（平成24）年度「医学図書館員基礎研修会」の開催などを通して、さらなる図書館間の連携の深化に努めている。

(f)社会貢献の推進

日進図書館が取り組んでいる日進市との連携については、今後も参加者の意見を踏まえながら、地域住民に大学の理解をより深めていただけるよう、魅力的な企画の検討を行っている。

(2)改善すべき事項

<1>大学全体

ア.校地・校舎、施設・設備整備

各キャンパスの立地条件等による特色あるコンセプトの策定と、それに伴った施設・設備への投資計画の検討・立案を要する。

イ.図書館、学術情報サービス

(f)資料組織の構築

日進・楠元・名城公園分館の3館では、学部構成、教育内容を踏まえた選書基準の整備に努めてゆきたい。

(i)利用環境の整備

日進図書館は、私立大学図書館において蔵書数や閲覧座席数、閲覧室スペースなどで上位クラスに属し、快適な閲覧環境を創出すべく絶えず努力を重ねてきた。しかし、グループ学習室や個人学習室は、在籍学生数に比して少なく、周りの利用者に気を遣わずに学生同士が議論しながら問題を発見し、解決策を導き出す学習環境が必ずしも整っているとは言えない。都心キャンパスへの移転を機会に、従来の設備や資料構成を見直すとともに、紙媒体と電子媒体とを有効に組み合わせたハイブリッド図書館として、高度なレファレンスサービスの提供を促進していきたい。本学の学生・教職員のみならず、近隣市町の公共図書館との連携を強化し、問題解決支援情報センターへの進化を目指したい。

楠元図書館では、運営委員のみならず、関係する学部との連携を密にして、利用者環境の更なる充実に努めてゆきたい。

名城公園図書館分館は、近隣住民および官公庁（愛知県・名古屋市）の方々に対して、貴重な学術資料の提供ができるように、さらなる利用の促進と広報の強化を行いたい。